

# MiNT

ミント

2016年10月2日発行

# Vol.7



みんなで決めよう「原発」国民投票 会報誌

「普通人」が「主役」になれる民主主義を。

戦後数年間、中学校・高校で使われた社会科の教科書を復刻した『文部省著作教科書 民主主義』（径書房）という本があります。その中で、「普通人」の力を信頼することが民主主義には大切だ、ということが何度か語られています。

日本では最近、アメリカのトランプ旋風やイギリスのEU離脱国民投票の例を挙げ、「普通人」の判断力を疑う声も少なくありません。それは同時に、民主主義の前提を疑うことでもあります。「普通人」こそ、民主主義の「主役」に他ならないからです。

「原発」国民投票運動のコアにも、「普通人」の力を信頼することがあります。「普通人」が「主役」となる民主主義を、実践、実現していきましょう。

（運営委員長・鹿野）





大阪造幣局桜の通り抜けて街頭アピール



鎌人いち場(鎌倉)でシール投票

## ミニト 第7号 目次

英国EU離脱、その衝撃と投票に至る経緯  
現地取材レポート(大芝健太郎) 3

第24回参議院選挙 公開質問状の回答結果 6

原発をめぐる各地の状況(伊方・川内・新潟) 8

図書紹介 10

交流団体紹介(対話の会・都民投票の会) 10

活動報告・アースデイ東京(4月22日・23日) 11

当会・地域の活動状況と告知 12

この会報は、みんなで決めよう「原発」国民投票に会員登録してくださった方にお送りしています。年会費未納の方はお早めに・



# 英国EU離脱

## その衝撃と投票に至る経緯

取材レポート：大芝健太郎（ジャーナリスト・当会会員）

イギリスで6月23日に「EU離脱」を問う国民投票が行われた。EU残留派が勝利すると誰もが思っていたが、蓋を開けてみると離脱派が52%を占めイギリスのEU離脱が決まった。誰も予想していなかった結果にポンドは暴落し、キャメロン内閣は総辞職。イギリスは混乱期に突入した。

そもそもなぜ、このような国民投票が行われることになったのだろうか。その答えは、2015年の総選挙にまでさかのぼる。キャメロン率いる保守党はこの選挙での苦戦が予想されていた。前年に行われたEU議会選挙ではイギリスのEU離脱を目指す極右政党「イギリス独立党」が27.5%の支持を得て第1党になり、保守党内でも「EUを離脱するべきだ」という理由でイギリス独立党に鞍替えする者が現れた。そこで、キャメロンはEU離脱派からの票を集めるため、選挙公約の一つとして「保守党が過半数を獲得したら、EU離脱を問う国民投票を実施する」と宣言し、選挙の結果過半数を獲得した保守党は国民投票の実施を決めたのである。

投票率は72%。総選挙で70%を超えたのは1997年以来であり、国民の関心は高かったと言える。しかしこの数字は、日本の投票率で感じるその高さよりは、実感としては低くなる。イギリスは投票人名簿に自ら登録して初めて有権者としてカウントされるため、そもそも投票に行く気のない人は母数に入っていないからである。国民全体を母数とすれば65%くらいが妥当な数字だろう。（次頁へ続く）

(←前頁より)「EU離脱」という結果には多くの若者、EU移民からの反発があり、ロンドンでは4万人を超える大規模なデモも行われた。国民投票の投票権はイギリスおよび、ジブラルタルに住む、英連邦およびアイルランド国民に与えられており、EU移民には投票権が与えられていなかったことも一つの要因である。新しく就任したメイ首相は「離脱は離脱」と公言し、今後はEUをどう離脱するか注目が集まっている。

## スコットランド独立を問う住民投票との比較

2014年9月に行われたスコットランド「独立」の是非を問う住民投票。投票日1年前までは30%ほどだった独立支持率が、投票直前には残留支持を上回るほどの勢いを見せた。あわや独立かと思われたが、結果は45%の支持にとどまり、独立には至らなかった。

当時のスコットランドには左から大きな風が吹いた。住民投票を進めたのは「Scottish National Party (スコットランド国民党)」という、教育の公的補助、最低賃金の引き上げなど、社会民主主義的な政策を掲げる政党である。イギリス (United Kingdom) から独立することで、新自由主義的な保守党の政治から解放され、もっと格差を埋める政策を進められ、核兵器ではなく医療や教育にお金をかけられる。そしてEU移民を歓迎する国へ舵を切ることが期待された。これらの政策が今まで投票に行ったことのない貧困層なども取り込み、支持者を得ていった。そして最終的に問われたのが「カネか主権か？」であった。

スコットランドがイギリスから独立するとポンドが今まで通り使えるかがわからず、EUに留まれるかどうかも定かではない。独立は経済的にリスクの高い選択になるとされていた。しかし、イングランド (Westminster) に主権が奪われたままでもいいのか。

“Scotland's future in Scotland's hands” 「スコットランドの未来はスコットランドが決めること」というキャンペーンはスコットランド人の心を打ち、独立までもう一步というところまで支持を拡大した。今、イギリスのEU離脱が決まり、親EUのスコットランドは再度「住民投票」の準備をしている。

イギリスの場合は、国民投票で「EU離脱」は4割ほどの支持を受けていた。キャンペーンを進めていたのは、保守党の離脱派とイギリス独立党。これらの離脱派は離脱すれば、移民を制限でき、EUの規制を外し(もっと新自由主義的な競争を進め)、他の国と共に発展するのではなく、イギリスを復興することができるとしていた。しかし、EUに残留しなければ「経済」が落ち込むことは、誰の目から見ても明らかであった。

ここで、離脱派のボリス・ジョンソンが争点にしたのは、スコットランド国民党が独立の気運を高めたのと同じ「カネか主権か？」という選択であった。スローガンは、「Take back control (主権を取り戻せ)」。EU法は、イギリスの国内法より上位法にあたる。イギリスの主権をブリュッセルの官僚たちに握られたままでもいいのか。官僚たちも選挙によって選ばれるわけではない。事

実、離脱派のリーダー格、保守党議員のジョンソンはこの言葉で最後の討論会を終え、争点の一つにこの「主権」を持つてきた。

スコットランドの場合は、イギリスからの「独立」に投票した貧困層、低学歴層は、もし投票によって「独立」が実現すれば、不満はいくらか改善しただろう。しかし、イギリスの国民投票の場合、右から吹いてきたこの風が高齢者、貧困層や低学歴層が飛び乗ったわけだが、果たして離脱に投票した彼らの抱えている不安が、保守党のリードするEU離脱によって解消されるかは疑問が残るところである。さらに貧しくなっていく可能性も否定できず、不満が解消されないまま、もっと極端なナショナリズム、排他主義、経済格差が進んでしまう可能性もある

## 日本の直接投票を語るレベルの低さ

以下は、読売新聞6月28日からの引用である。

「英国が国民投票で欧州連合 (EU) からの離脱を決めたことを巡って28日、閣議後の記者会見で、国民投票がポピュリズム (大衆迎合主義) に陥る危険性を指摘する声が相次いだ。河野国家公安委員長は「離脱派の公約があまり正確ではなかったとも言われている。ポピュリズムに陥らないよう、民主主義で物事を決める難しさを再認識する必要がある」と語った。英国では再投票を求める署名活動が広がるなど、離脱決定を後悔する動きが出ていることを踏まえたものだ。麻生副総理兼財務相は「議院内

当日の投票所(ロンドン)



戸別訪問する離脱派市民(ロンドン)



閣制を良しとする英国で、代議員制度ではなく直接投票を選んだのはいかなものか」と述べ、議会で冷静に議論を進めるべきだったと強調した。

「国民投票がポピュリズムに陥る危険性」は始まる前からわかりきっていたはずだ。これは「車が交通事故を起こす危険性」のようなものである。車は凶器にもなりうる、しかしどう安全に車に乗るかを議論すべきなのだ。「正確な情報が出てこない」というのは当然予想される課題であるが、正確かどうかを判断するのは、国民一人ひとりであり、むしろ表現の自由が阻害され、政府の言う「正確な」情報しか流せなくなる方が心配だ。

「直接投票ではなく、議会で議論を進めるべき」というが、有権者は代議員に、選挙で争点とならないすべての政策方針までを託しているわけではない。原発の稼働、EU離脱など、特に国民に大きな影響を及ぼす事案においては、主権の存する国民に直接問うのは自然なことである。また仮に、EU離脱を進めるイギリス独立党が単独与党で政権を握ったからといって、議会制民主主義を理由に、それを国民に問わずにEUを離脱することは、許されないことであるとも考えられる。

いずれの批判も「直接投票」自体にありもしない理想を抱いているのか、それとも「直接投票」

を触れてはいけないものかと思っているのであらうか。今、私たちがするべきは「直接投票」叩きではなく、今後日本で行われる場合の投票をよりよくデザインすることだ。「国民投票」「住民投票」と一口に言っても、各国ですで行われている法律やルールは様々であり、今一度、各国の例を検証し直し、実際に日本で行われる住民投票、また今後初めて行われる国民投票に期待したい。

### イギリスの国民投票は成功

EU離脱という選択は、見る人が見れば失敗と映るかもしれない。だが、国民投票を前に盛んに議論が行われ、ある程度の情報が行き渡り、高い投票率が記録された。国民的な議論を経て、主権者である国民が一票を投じ、決定したことの意義は大きかったのではないか。国民投票を仕掛けたキャメロンは望んでいた結果を見ることはできず、国民の選択を「尊重する」として辞職した。続いて首相になったメイ新首相も「離脱は離脱」と公言し、次はどうEUを離脱するかが議論されている。イギリスで3回目（スコットランドの独立住民投票などを含む12回）となる国民投票は、主権者である国民が一票を投じ、その結果に責任をとる営みとして積み重ねられた。その意味で、今回の国民投票は成功であったと言えるだろう。

# 第24回参議院選挙 公開質問状の回答結果

●原発国民投票法の制定に「賛成」

政党	名前	選挙区	現/元/新	当落	問1回答	問2回答	
民進党	9人	桜井 充	宮城	現	◎当選	賛成	参加したい
		徳永 エリ	北海道	現	◎当選	賛成	参加したい
		真山 勇一	神奈川	現	◎当選	賛成	参加したい
		小川 敏夫	東京	現	◎当選	賛成	参加したい
		福山 哲郎	京都	現	◎当選	賛成	参加したい
		大河原 まさこ	比例	現	落	賛成	参加したい
		田中 なおき	比例	現	落	賛成	参加したい
		増子 輝彦	福島	現	◎当選	賛成	検討したい
		たしろ かおる	比例	現	落	賛成	検討したい
日本共産党	6人	よしまた 洋	比例	新	落	賛成	参加したい
		石山 ひろゆき	比例	新	落	賛成	参加したい
		にしざわ 博	比例	新	落	賛成	参加したい
		高橋 わたる	比例	新	落	賛成	参加したい
		山田 かずお	比例	新	落	賛成	参加したい
		みかじり 亮子	比例	新	落	賛成	検討したい
社会民主党	2人	森 ひでお	神奈川	新	落	賛成	参加したい
		増山 麗奈	東京	新	落	賛成	参加したい
新党改革	2人	平山 誠	比例	元	落	賛成	参加したい
		大坂 佳巨	比例	新	落	賛成	参加したい
おおさか維新の会	1人	鈴木 望	比例	新	落	賛成	参加したい
生活の党	1人	日吉 雄太	比例	新	落	賛成	参加したい
無所属	1人	佐藤 かおり	東京	新	落	賛成	検討したい

●原発国民投票法の制定に「条件付き賛成」

政党	名前	選挙区	現/元/新	当落	問1回答	問2回答	
社会民主党	1人	田山 英次	比例	新	落	条件付き賛成	参加したい
減税日本	1人	奥田 香代	愛知	新	落	条件付き賛成	検討したい
無所属	2人	永江 孝子	愛媛	新	落	条件付き賛成	検討したい
		道用 悦子	富山	新	落	条件付き賛成	どれでもない

●原発国民投票法の制定に「反対」

政党	名前	選挙区	現/元/新	当落	問1回答	問2回答	
自由民主党	3人	熊谷 大	宮城	現	落	反対	参加したくない
		高野 剛	山梨	新	落	反対	参加したくない
		小鎚 隆史	滋賀	現	◎当選	反対	参加したくない
公明党	1人	高瀬 弘美	福岡	新	◎当選	反対	参加したくない
無所属	1人	阿部 広美	熊本	新	落	反対	参加したくない
諸派	1人	鈴木 信行	東京	新	落	反対	参加したくない

●原発国民投票法の制定に「どれでもない」

政党	名前	当落	政党	名前	当落	政党	名前	当落
日本共産党 36人	森 英士	落	日本共産党 36人	藤本 ゆり	落	民進党 5人	杉尾 ひでや	◎当選
	あさか 由香	落		いわぶち 彩子	落		黒石 健太郎	落
	小林 恭子	落		くまがい 智	落		はちろ 吉雄	◎当選
	浅野 史子	落		小池 一徳	落		蓮舫	◎当選
	山添 拓	◎当選		伊藤 たつや	落		宮沢 由佳	◎当選
	須山 初美	落		亀田りょうすけ	落	自由民主党 3人	若林 健太	落
	鈴木 千佳	落		佐藤 こうへい	落		古庄 玄知	落
	大河原 寿貴	落		和泉 信丈	落		阿達 雅志	◎当選
	渡部 結	落		坂口 多美子	落	公明党 1人	伊藤 孝江	◎当選
	柴田 雅子	落		岡田正和	落	社会民主党 1人	吉田 ただとも	落
	市田 忠義	◎当選		遠藤 ひでかず	落	新党改革 1人	藤岡 佳代子	落
	大門 みぎし	◎当選		ふるたみちよ	落	無所属 5人	読谷山 洋司	落
	いわぶち 友	◎当選		かみむら 泰稔	落		木戸口 英司	◎当選
	おくだ 智子	落		原口 敏彦	落		米長 晴信	落
	椎葉 かずゆき	落		山下 かい	落		由良 登信	落
	たけだ 良介	◎当選		松本 隆	落		下町 和三	落
	春名 なおあき	落		真栄里 保	落	支持政党なし 2人	片野 英司	落
	いせだ 良子	落		田村 智子	◎当選		佐野 明美	落

2016年7月10日に投票された第24回の参議院議員選挙には、選挙区・比例区合わせて388人が立候補しました。みんなで決めよう「原発」国民投票は、そのうち送付先の判明した307人に公開質問状を送りました(過去に送付を断られたことのある幸福実現党は、調査対象外)。回答があったのは、43人でした。質問項目は以下の2つです。

①原発の是非を問う国民投票(以下、「原発」国民投票)を実施するための手続法を制定することについて、あなたは賛成ですか?反対ですか?

②「原発」国民投票法の成立を目的とする超党派議員連盟を設立し、それに参加することについて、あなたはどう考えますか?

問①については、「賛成」が22人、「条件付き賛成」が4人、「反対」が6人、「どれでもない」が33人、回答なしが1人でした。

政党別にみると、「賛成」がもっとも多かったのが民進党の9人で、次いで共産党の6人、社民党と新党改革が2人、おおさか維新の会と生活の党、無所属が1人でした。自民党からは「賛成」の意見は一つもありません

でした。

おおさか維新の会から「賛成」と回答した1人は、原発静岡県民投票の直接請求運動で共同代表を務めた鈴木望氏(比例)でした。国会請願の紹介議員になっていた福山哲郎(京都)、徳永エリ(北海道)の両氏、桜井充氏(宮城)をはじめ、「賛成」と回答し当選した6人は、何れも民進党の議員でした。以下に、賛成者のコメントをいくつか紹介します。

民進党 徳永エリ氏(北海道)

「第189回国会での請願は力及ばず審査未了となりましたが、引き続き、皆さんと力を合わせて、法制定に向けて頑張ります。」

民進党 真山 勇一氏(神奈川)

「本来、国会議員が常識と良識に基づいて判断し『原発ゼロ』を達成することが望ましいと考えるが、民意に耳を傾ける議員の数が多くない現状では国民投票に訴えることも考慮すべき。」

共産党 山田かずお氏(比例)

「原発推進の自民、公明を少数に追いこむことが必要だと思います。」

「反対」と答えた6人の所属政党は、自民党3人、公明党1人、無所

属1人、諸派1人でした。「反対」議員のうち、自民党の小鈍隆史氏(滋賀)と公明党の高瀬弘美氏(福岡)が当選しています。

「どれでもない」と回答した候補は、共産党所属が圧倒的に多く36人で、民進党の5人、自民党が3人、公明、社民がそれぞれ1人、無所属・諸派が7人でした。「どれでもない」の中にも注目に値する回答がありました。民進党の代表に就任した蓮舫氏(東京)は、コメントで「今後、検討していきます」と書いています。また、今回落選はしたものの社民党の党首に留まった吉田忠智氏(比例)は、「脱原発の立場ですが、社民党の中でまだ議論していません」とコメントしました。

問②(議員連盟の設立・参加)については、「参加したい」が19人、「検討したい」が8人、「参加したくない」が4人、「どれでもない」が5人でした。おおむね、問一に肯定的な議員は、問二にも肯定的な回答を寄せました。

今回の参議院選挙では、「原発」国民投票に強く賛同する議員の落選や不出馬もありました。国会請願の紹介議員だった新党改革の山田太郎氏(比例)は、30万票近い得票があったものの、残念ながら落選しました。ま

た、過去に国会で何度も「原発」国民投票の実現を訴えた松田公太氏(日本を元気にする会)は出馬することなく、政界を去りました。

43人という回答数は、決して多い数ではありません。しかし、過去の公開質問状の回答に今回の新たな回答が加わったと考えれば、会としての蓄積は進んでいると言えます。宛先の住所を調べ、送付作業をして、ホームページにアップするという公開質問状の一連の作業は、大変骨の折れるものです。今後、その努力が無駄にならないように、回答を寄せてくれた一人一人の候補に地道にアプローチしていきたいと思えます。

(運営委員長・鹿野)



# 原発をめぐる各地の状況(伊方・川内・新潟)



伊方原発(愛媛県伊方町)

伊方原発、川内原発の現地レポートをお届けします。伊方原発の報告は、「伊方の家」を主宰する反原発の闘志、八木健彦さんから。八木さんは、八幡浜市住民投票の直接請求運動では事務局を務めておられ、当会のメンバーも現地でお世話になりました。川内原発の報告者である井上真紀さんには、2月20日に兵庫県宮市で当会が開催したイベント「ナットクしてまず?原発再稼働のコト。」で講師としてお招きし、川内原発について話していただきました。

## 伊方

2016年1月28日の八幡浜市議会での住民投票条例案が9939名の署名を踏みしめて否決された時から、伊方原発再稼働をめぐる闘いは四電と住民(30km圏—全四国・環瀬戸内圏)とが直接向き合う構造へと移行した。八幡浜住民投票は、9・2市長同意回答を軸に偽造された地元同意が公的力として30km圏の表層を覆い、社会を締め上げていくことに鋭く対峙した。表層の地元同意を引きはがし、「福島を繰り返さない」という意志を住民の自己決定として公的に表現し、30km圏の住民意志として逆包围していくという位置を持っていた。それだけに再稼働

働容認・推進のなりふり構わない強硬な壁に直面し、挫折した。私たちは1月28日八幡浜市庁舎包囲に早朝から集まった150名の力を南予全体に広げていくべく、2月〜4月に広瀬隆氏や岡村真氏の連続講演会を八幡浜・西予・宇和島で開催し、横断幕を張り巡らせた車両25台での南予縦断車パレードを敢行した。

4月には熊本大地震があり、八幡浜でも震度5弱を経験、そして震源地が中央構造線を東漸して大分へと拡大し、伊方原発の恐怖は南予全域に広がった。5月11日からの1カ月間、四電が延べ15000名の社員を動員して20km圏2万8千戸への戸別訪問を実施し、それに対抗して私たちは愛媛全県及び全四国からのべ250名の参加を得て、20km圏に3万部のマンガパンフを各戸配布した。地震と原発をめぐる複合災害(第2の福島)は差し迫った問題として突き出された。6月下旬の核燃料装填と四電株主総会は全四国からの抗議の声に包まれた。四電は7月26日に再起動させると発表したが、川内・高浜と同様再稼働しようとするやトラブル(二次冷却水ポンプの漏水事故、後には二次冷却水ポンプも)を発生させ、原発の本質的構造的欠陥を露呈したのであった。

7月24日の全国集会はこういう中で開

催された。半世紀に及ぶ伊方闘争はじまって以来という700名の全国集会は愛媛県警(香川や兵庫県警の応援を受けた)の総力を挙げた地域厳戒態勢の中、国道197号線↓ゲート前と熱気に満ちて敢行された。そして8月11日〜12日と再起動は150名で迎え撃たれた。7月〜8月の時期には伊方町内の各集落への街宣・パレード・ポスティングは連日わたつて精力的に追求された。それは住民の中に共感を創っていくものとなった。多くの人がいたたまれない気持ちで耳を傾けてくれた。

それでも伊方原発3号機は再稼働された。だが私たちは諦めるわけにはいかない。私たちはふるさとと命を諦めることはできず、誇りと尊厳を捨て去ることはできない。さらに大きな大衆運動と自治体行政を動かす行動と裁判闘争等、可能なあらゆる方法で闘っていく。

(八幡浜市・八木健彦さん)

## 川内

2015年8月11日、鹿児島県だけでなく全国民の不安を無視して川内原発1号機は再稼働されました。そして10月15日には2号機が再稼働されました。

今年4月、熊本で大きな地震が2回あ



川内原発(鹿児島県薩摩川内市)



川内原発ゲート前・再稼働に抗議する人びと



柏崎刈羽原発 (新潟県柏崎市・刈羽村)

りました。鹿児島市も揺れましたが、薩摩川内市でも震度4と震度3の地震がありました。鹿児島では日頃から桜島がよく噴火しますが、地震は少なく、今回の熊本地震の余波による鹿児島での地震の心理的影響は考える以上に大きかったのではないかと思います。

7月の県知事選では原発推進派だった伊藤知事が落選し、脱原発派の三反園知事が誕生しました。議会を含めこれまで原発推進派が多数を占めていた薩摩川内市では7票差で三反園知事が勝ちました。ここに至るまでには様々な出来事がありました。

まず、伊藤知事はこれまで3期務めていて次当選すれば4期目となりました。1期目はそれなりに良かったようですが、横柄な態度も相まって次第に評判が悪くなってきました。(特に県庁の職員の評判はひどかったようです。) また県民のためというより自分を支援する団体や企業ばかりが恩恵を受ける政策が目につくようになり、そこから外れた団体や企業や県民の反感を買うようになりました。

2013年のリコール運動の時のように選挙が近づくにつれ「もう伊藤知事にはやめて欲しい」という声を聞くようになりました。

また、熊本地震が起きてすぐ、薩摩川内市の漁港でお祭りがありました。1年に1度、大漁と無事を願う伝統的なお祭りで、熊本地震のすぐあとだったので一時は開催が危ぶまれましたが、それなりに準備もかかっていたし漁師の多い地域にとって大切なお祭りだったので、開催する

ことになりました。そこに伊藤知事が来賓としてやってきました。招待したのはもちろん地元の方ですが、まさか熊本地震のすぐあとで県知事としての対応で忙しいはずだから来れないだろうと思っていました。しかしやってきた伊藤知事はまるで地震なんてなかったかのようにお祭り会場でふぐを美味しそうに食べ、地震や原発の話には一切触れず帰っていきました。日頃から「原発がないと困る」と言っていた地元の方もさすがに嫌悪感を抱かれたようです。しかも伊藤知事はその時点で九州電力の「原発は停止しなくても大丈夫です」をそのまま受け入れ「九州電力に任せているから」と県知事として原発停止要請をしていませんでした。

そんな伊藤知事を押しつけている三反園知事のように歓迎されている三反園知事ですが、実はそうでもないかも、というのが個人的な感想です。選挙期間中は、三反園(伊藤知事には勝てないから、という理由で反対運動界限から出馬した候補者が立候補を断念しましたが、彼に對する三反園知事の態度や原発反対運動を掲げている団体への対応を見ると、今回の九州電力への停止要請はパフォーマンスに見えます。しかし、このような見方は少数派で一般的には歓迎されているようです。果たして彼が何を考えどこを目指しているのか、まだ見えていません。妄信的に彼を応援している人もいますが、今後も注視していく必要があると考えています。

(天文館アトムズ・井上真紀さん)

## 新潟

各種報道によると、原子力規制委員会は8月下旬、東電柏崎刈羽6、7号機の審査を優先して進める方針を固めた模様です。一方、8月30日、4選出馬を表明していた新潟県の泉田裕彦知事が、知事選(9月29日告示、10月16日投票)への不出馬を発表。その理由として、新潟日報がフェリー購入問題で知事側の主張を掲載しないことをあげ「このような環境の中では、十分に訴えを県民にお届けすることは難しい」と語りました。この事態を受け、泉田氏を支持する団体「おむすびの会」は9月2日より、不出馬撤回を求める署名集めを実施しました。なお、会の呼びかけ人の一人の橋本桂子氏は「原発」新潟県民投票「みんなで決める会」の代表を務めた人です。会の詳細や動向については、フェイスブックページ ([www.facebook.com/omusubinokainijigata/](http://www.facebook.com/omusubinokainijigata/)) をぜひご覧ください。当会報の発送時には、既に知事選は始まっています。原発再稼働問題について活発な議論が交わされることを期待します。

(運営委員長・鹿野)



伊方原発前で再稼働に抗議する人びと

## 図書紹介

『科学不信の時代を問う』  
福島原発災害後の科学と社会

2016年5月刊行  
島菌進・後藤弘子・杉田敦編  
合同出版 2700円



2011年3月の東電福島第一原発事故による原発災害は、約5年後の今も膨大な被害をもたらしており、社会のなかでの科学・技術への信頼は大きく低下した。これは、現代社会の基盤を揺るがす事態とも言えるだろう。

日本学術会議第一部(人文社会系)ではこうした事態に対し、2012年から「福島原発災害後の科学と社会のあり方を問う分科会」を起ち上げ、その2年半の討論に基づき「提言 科学と社会のよりよい関係に向けて―福島原発災害後の信頼喪失を踏まえて―」(2014年)をまとめた。本書は、この分科会の審議と2013年に福島市で開催されたシンポジウムの内容をもとに、新たに関係者の書き下ろしを加えて構成されている。分科会委員には、当

会顧問である杉田敦氏(法政大学教授)、2014年に当会シンポジウム「原子力政策をどう決めるか 福島原発事故をきっかけに」に登壇した吉岡斉氏(九州大学教授)、本書の編集、執筆者として、同じく登壇者の寿楽浩太氏(東京電機大学助教)の名前がある。

杉田氏によれば、本書で追及されている「科学と社会の関係」に関する論点は三つある。一つは、科学の自律性ないし中立性をめぐる議論であり、科学者の研究活動に影響を与えるものとして政治権力や経済的な影響力などが挙げられる。二つ目は、科学が解明できることの限界であり、もし限界があるなら科学者と市民が不断の対話を続けることが求められる。三つ目は、科学的な論点をめぐる熟議の仕方に関する議論である。「専門家」たる科学者に丸投げができないとすれば、リスクの負担など実践的な問題は人々が決めるしかない。また、人々が合理的判断をするために、科学者はどのような役割を果たすべきか。

第一、第二の論点は、前述の当会シンポジウムでも議論され、岩波ブックレット『原発決めるのは誰か』として刊行されている。第三の熟議のあり方は、直接投票との関連において今後さらに追及されるべき論点であろう。各章では、原発事故をはじめ様々な角度から「科学と社会の関係」について解題されており、市民の側からその再構築を考える上でも勉強になる一冊である。(稲田)

## 交流団体紹介

### ●「原発」都民投票の会

2016年の私たち

「原発」都民投票の会  
共同代表 野本耕作

私たちは、今年3月1日(ピキニデー)から11日まで、再び渋谷ハチ公前の空に「原発」と「市民自治」の旗を掲げた。愛媛県八幡浜市民への敬意でもある。2012年に、私たち東京都有権者32万3076人は原発の是非に投票することを求めた。市民の知らないところで決めてしまうという因習は、最近では豊洲新市場問題に顕著だ。

また、小勉強会が続いている。お題だけだが、「憲法95条」「子ども食堂」「警視庁機動隊沖縄派遣」「伊方原発と八幡浜市のこと」「避難者支援センターの必要」「電気料金に組み込まれている託送料金の原子力発電関連費用」「砂川闘争における市町村合併の影響」。

1945年、焼け野原東京の「民」は一個のみかん箱などで「市」を開き生きた。2016年、一枚の紙と一本のボールペンで私たちは同じことをしている。

メール会員(会費無料)の申込み  
↓E-mail:tomintohyo.nuke@gmail.com

### ●原発対話の会

対話の会事務局も務める  
運営委員長・鹿野より

「原発対話の会」は、東京都狛江市内のMAPという会場を拠点に活動している会です。原発賛成、反対、どちらでもない・・・各々主張は異なっているとしても、原発にまつわる様々な事柄についてみんなで考えていこう、真摯に対話を進めていこう、というスタンスは、みんな決めてよう「原発」国民投票にも通じるものがあると思います。

2013年12月の発足以来、会の開催は16回を数え、元東電社員で作業員支援などを行っている吉川彰浩さん(最多の4回)、当会のイベントでも登壇していたたいた澤田哲生さん(東工大)や寿楽浩太さん(東京電機大)、相馬中央病院勤務の越智小枝さん、今中哲二さん(元京大)、菅直人元総理、原研や電力中央研究所の職員など、多彩なゲストを招いてきました。

イベント後には同じ会場で懇親会を開き、ビールや泡盛を飲みながら楽しく語り合うのが恒例です。次回は11月19日、おしどりマコさんを招きます。問い合わせは、鹿野まで。  
(090-1702-8136)

# Report アースデイ東京2016

## 模擬「原発」国民投票を実施しました。



みんなで決めよう「原発」国民投票は、4月22日・23日の2日間にわたって代々木公園で開催された「アースデイ東京2016」にブースを出展しました。

今回は、「原発」都民投票の会が、当会に「賛同」という形で一緒に参加してくれました。署名集めや会のチラシの配布を行ったほか、メインの出し物として「模擬「原発」国民投票」を実施しました。

〈模擬「原発」国民投票〉では、原発のこれららについて5つの選択肢を提示して、そのうちの1つを選んでシールを貼ってもらいました。これだけならただのシール投票ですが、今回は初の試みとして、参加者に選択肢を選んだ理由を書いてもらったり、他の人が書いた理由に賛同してもらったりしました。シールを貼ることで単純に自分の意見を表明するだけでなく、ブースの前で足を止めてもらい、いろんな人の多様な意見に接して、原発のこれららについて考えてもらうことがねらいです。

理由は大きく「安全性」「供給」「コスト」「環境」「その他」の5つにカテゴライズして縦軸とし、横軸となる5つの選択肢とマトリックスを大きな横造紙に表現しました。

5つの選択肢に対する最終的な投票数は、次のようになります。

【設問】現在ある原子力発電所について、

これをどうすべきだと考えますか？

- ① 即時ゼロ・・・・・・・・・・ 397票
- ② 10年後にゼロ・・・・・・・・ 77票
- ③ 2030年代にゼロ・・・・・・ 33票
- ④ 依存度を減らしていくが  
ゼロの時期は決めない・・・・ 49票
- ⑤ 依存度を減らさない・・・・ 25票

会場が環境問題に関心の高い人が多いアースデイだったことから、票数としては圧倒的に「即時ゼロ」が多くなりました。

スタッフは、参加者が考えているのを邪魔しないようにしながら、悩んでいるようなら話しかけて、情報を伝えたり、質問したりします。大切なことは、参加者と議論することではなく、参加者の考えを引き出していくことです。自分と異なる意見の人の話を聞くことには、一定のストレスがかかります。傾聴者として、ファシリテーターとして、また楽しんで帰ってもらうためにはエンターテナーとしての技量も求められます。その意味で、スタッフにとって刺激的な機会となりました。

当会としては今後、原発についての様々な意見や事実をしっかりと整理することが大切だと考えています。そして、簡潔な資料を作ったり、パネルを作成したりして、有意義な判断材料を提示していく。それらの材料は、今回のような模擬「原発」国民投票のときに使用するほか、ホームページに掲載したり、ワークショップの題材として活用していきたいと考えています。

「一般の日本人は議論ができない」「政治家より国民の方が愚かだ」。そういった「原発」国民投票の実施に反対する人がいます。私たちは「そんなことはない。原発の是非は、国民一人一人が考え、議論し、そして投票するにふさわしいテーマだ」ということを、模擬「原発」国民投票等の実践によって、これからも示していこうと思っています。

(4月29日発表の当会ウェブサイト記事を編集して掲載)

# 当会・地域の活動状況と告知

- 北海道 報道倫理をテーマにしている研究者がいるので、国民・住民投票時の報道について語り合っています。リーフレット配布も抵抗感の無い人でペースアップしたいです。(山下)
- 東北 東北は今年度具体的な活動は行えませんでした。公開討論会などの「お任せ民主主義からの脱却」に繋がるような地域の情報を積極的に紹介して参りました。(砂子)
- 千葉 2年前に千葉大で10回に亘って開催した「市民の市民による市民のためのエネルギー講座」をベースにした本を出版するための活動を再開。出版会議を2回開催しました。(寶川)
- 埼玉 上尾市では、図書館新築移転計画の見直しを求める直接請求運動が佳境に入っています。原発埼玉県民投票で引き合わせた人が中心になってやっています。(竹内)
- 東京 4月22・23日に代々木公園で開催された「アースデイ東京2016」に出展。今年は「模擬「原発」国民投票」と銘打ち、原発について話し合う場を持ちました。(鹿野)
- 神奈川 5月「鎌人いち場」(鎌倉)にブースを出展。今回は国政選挙も近いということもあり、「あなたは、どの政党の原発政策を支持しますか?」という設問でシール投票を行いました。3つの選択肢と最終的な票数は、①即時ゼロ(共産、社民、生活等):156票/②2030年代にゼロを目指す(民進):12票/③2030年に原発比率を20~22%(安倍政権(自民・公明)):25票/①と②の間:2票、でした。10月16日の鎌人いち場(由比ガ浜海浜公園)にも参加します。(宮本)
- 東海 7月16日(土)愛知サマーセミナー2016に講座参加。各種講演会会場前などでリーフレット配布。定期活動として、毎週土曜日に栄噴水南バスターミナル前署名活動(雨天は中止)。(渡邊)
- 関西 4月に大阪造幣局桜の通り抜けで街宣しました。8月より有志で憲法改正国民投票実施を見据えた勉強会を4回開催しました。次回は10/16(vol.5)、29(vol.6)、西宮にて。(本村)
- 全国 東京で12月の土曜日を候補に、原子力政策と熟議をテーマにしたイベントを計画中。確定しましたら一斉メール、HPでお知らせします。ぜひご参加下さい。(稲田)

★10月22日(土)東京堂ホール(東京・神保町)にて、2016年度拡大運営委員会と講演イベント「福島第一原発 原発避難を考える(仮)」を開催します。詳しくは同封の案内をご覧ください。

10月22日は拡大運営委員会でも神田神保町に集合。ここからお茶の水にかけては楽器の街なんですね。覗きたい、けど自分が怖い。手ぶらで

5年目にしてMINT編集に携わったのは初めてでした。「原発」に関する動きや「国民投票」に関する社会の動きは5年前から大きく変わってきました。十分に追いつけていませんが、自分たちの欲しい未来に向かって、わずかでもわたしなりの歩みを進めていこうと、あらためて思うことができました。(森)

今回、イギリスの国民投票についての原稿を担当させていただきました。取材は大好きなのですが、アウトプットはまだまだ苦手で、編集委員の皆さんに助けていただき、今回形にすることができました。貴重な機会をいただき、本当にありがとうございます。(大芝)

## 編集後記

帰れないかも。でもやっぱり覗くだけでも・・・それからお昼はやっぱり「まつや」で蕎麦やな。そんなことを考えながら編集しています。みなさん神田で会いましょう。(大音)



みんなで決めよう「原発」国民投票 会報誌

**MINT 第7号** ミント 第7号

2016年10月2日発行

発行: みんなで決めよう「原発」国民投票  
〒211-0004 川崎市中区新丸子東3-1100-12  
かわさき市民活動センター レターケース No.36  
TEL: 070-5369-9707 (PHS)  
FAX: 03-5539-4046  
e-mail: info@kokumintohyo.com  
web: www.kokumintohyo.com